
G & B ! 最高の相方と別れた後、最悪の相方と出会った。

暁

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

G & B！最高の相方と別れた後、最悪の相方と出会った。

【Nコード】

N5743Z

【作者名】

暁

【あらすじ】

最初は静かですが、一応ハイテンションコメディー目指しています。漫才師の話なので、セリフ自体が多かったり、1つのセリフ量が多い時があるので、ちょっとラノベっぽいです。

多少エロがあるので、苦手な人は注意してください。

最悪な相手との出会い。(前書き)

この小説と同じタイトルがあってビックリです！急遽1話のサブタイトルを、タイトルに付けました。

最悪な相方との出会い。

俺は昔からお笑い芸人になりたかった。その理由は2つ。

1つは小学生の時、クラスの皆を笑わせるのが好きだったから。

2つは高校生の時、兄さんの病気がもう治らないと知って悲しんでいた時、兄さんは言った。

「公、また面白い事してよ。辛い時こそ、笑いたいんだ」

そう、笑っている時は辛さを忘れることができる。それなら、俺は漫才で人を笑わせ、人の辛さを減らす漫才師になろうと、この時決めたんだ。

高校卒業した後、俺は両親に言った。

「俺、漫才師になる。だから、東京に行く！」

両親はもちろん反対したけど、俺は夜中に家を飛び出し、家族に内緒で上京したんだ。

上京したけど金もなく、家もない。しばらくは野宿生活が続ки、バイト代はほとんどストレス解消のやけ食いに消えてしまう…。

そして上京してから5年経った今、なんとか相方もできて、マンシヨンに住んでいるが、58キロあった体重は87キロになってしまった……。

ヤバいと思っているが、俺はボケ担当。ネタになるからいつか。ブルルルル。

ん？電話だ。…マネージャーからか。

「もしもし？…えっ！相方が俺とコンビ解消したいし、俺の顔も見たくない！？ふむふむ…『こんなデブはもう嫌だ』って言っている？ははは…日本中のデブに謝れ！あっ、いや、七生^{ななみ}さんに言ったんじゃないですよ。それで、新しい相方は…さっすが七生さん。もう見つけているとは。あっはい、どんな奴でもいいです。10分後にコンビニですね。分かりました」

俺は電話を切った。どんな奴でも言いといったが、ポンコツが来た

らどうしよう…。まあ、豚骨がいう事じゃないけどな。

10分後、近くのコンビニに行くと、長身の男がブンブン手を振っているのを見つけた。夜中じゃなかったら、あれ少し恥ずかしいな…。

とにかく、俺は男に近づいた。

「雅^{みやび} 公だよね。オレは金木^{かなぎ} 良^{りょう}。よろしく！」

金木は嬉しそうに笑う。

そして、この男がド でゲイでド変態でアホだと知るのは……もう少し後の事だった。

最悪な相手との出会い。（後書き）

この小説は不定期連載のため、次の更新は未定です。
なるべく早く更新したいです。

同居はじめました。

俺は金木を連れて、俺が住むマンションに帰った。

「えっと…何から始める？」

「お笑いつてよく分かんないし、何でもいいよ」

「よく分からないって、じゃあ、お前がお笑い芸人目指す理由はなんだ！」

「お金が欲しいから」

「…」

こいつ…そんな理由で芸人目指しているのか…。

「芸人って言っても、今は全然儲かってないからな」

「ふーん、別にそれでもいいよ。あつ、にくまん冷めた」

「！？」

なんだこいつ！話が通じない！こいつはアホの国から来た、アホの王子様か！

「とりあえず、ボケかツツコミ…いや、お前にツツコミは無理だ。

俺がボケをやる。いいな」

「了解〜！」

「…」

なんかフワフワしているな…。

「ねえ、コンビ名変えるんでしょ。オレはそういうの苦手だから、公が考えてよ」

あつさり俺の名前言ってるし…。ハムって言われるよりはマシだけど…なんかムズムズするな。

「…今は思いつかないから、後で考えるよ。それでいいだろ…良」
「……へへっ」

俺が名前を呼ぶと、良はニツコリと笑った。見た目は大人っぽい子供で、頭脳は子供だな。

シンシンシンシンシン。

「おつ、やかんのお湯が沸いたか」
のっそり立ち上がり、台所に行く。

「良ってハーブティー飲めるの…うわっ！」

良に背中を向けながらお茶の準備をしていたら、いきなり後ろから良に抱きつかれた。

落ち着け自分！抱きついているのはでかい大型犬抱きついているのはでかい大型犬抱きついているのは…ちがうだろ！怖がるな自分！
「…俺、後から抱きつかれるの苦手だから離れる。熱い物持っているし」

「公はいい匂いがする…」

ちくしょう！話を通じねえ（泣）！

「ねえ…エッチなこと…してもいい？」

「して…たまるかこの野郎！くらえ！火事場のデブ力！」

「うわっ！」

俺はブチ切れて、良を背負い投げた。

「あっ！お茶、かかってないか！？」

「ん〜、大丈夫だけどビックリした。すごいね。背負い投げ出来るんだ。こんな狭いところで」

「狭くて悪かったな。つーか、お前…さっきのどついう事だ」

「エッチしたいって言ったこと？あれは本心だよ。しないの？」

「するか！」

こいつ…ゲイだったのか……。

「つままないの〜」

気をつけなきゃ、また襲われそうだな。

「ねえ、この部屋家賃いくら？」

「いきなりなんだ」

「いくら！？」

「…3万円」

「オレの部屋は5万円。でも、最近家賃払えなくなってきたんだ」
何が言いたいんだこいつ…。

「オレの部屋に住まない？ネタ合わせとか今後の話もしたいし、2人で家賃分ければ2万5千円。公は5千円も節約できるんだよ」

たしかにいい話だが…襲われそうでなんか怖いな。

「どんな部屋だ？」

「バストイレキッチン付き、個人部屋が2部屋。あと壁は防音になってるよ」

防音だと！それなら部屋でネタ合わせしても、隣りの人に怒られないって事じゃないか！

「その話、乗るよ。でも！俺は女が好きな普通の人間だ！俺はお前とやらしい事は絶対しない！いいな！」

「…わかった」

と言う訳で、俺はこいつと同居することになったが…。

「…はあ、バイト疲れたな……」

良の部屋を開けると…。

「……あつ、公。おかえり…。公も…一緒にする？」

「するか！」

知らない男を連れ込んで、Hしていた。

「つーか、またしてるのか！お前の部屋開けると90%エロ現場！疲れている俺を癒すってこ」

「ん…もつとし」

「するな！続けるな！俺を癒せー！」

こいつと同居したのは、間違いだったな…。

同居はじめました。(後書き)

『死刑囚子育てプロジェクト』は今日か明日の深夜更新予定です。

そして、完全に昼夜逆転してますが、今から寝ます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5743z/>

G & B ! 最高の相方と別れた後、最悪の相方と出会った。

2011年12月21日14時53分発行